

看護学科 シラバスの変更一覧

学年	ページ	科目名
2年	25	看護展開論Ⅱ
2年	41	小児看護学援助論Ⅱ
2年	50	災害看護
3年	60	看護研究Ⅱ

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-INS-02				
	●	●								
科目名	看護展開論Ⅱ				単位認定者	遠藤 美穂子		試験(筆記)	50%	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題	40%
					授業形態	演習	授業時間数		46 時間	受講態度
							授業回数		23 回	
授業の概要	ヘルスアセスメント(データベース聴取、面接・問診技術、観察・測定・記録技術)、フィジカルアセスメントの基本的技術(視診・触診・打診・聴診)、各系統別の構造と機能(外皮系・感覚器・筋骨格系・神経系・呼吸器系・循環器系・消化器系・腎泌尿器系・生殖器系・乳房)にもとづくアセスメントの視点や方法、成長発達(母性・小児・老年)に伴う特有なアセスメントの視点と方法を学び、看護実践に必要な臨床判断能力と人の全体(身体・精神・社会的)の査定に必要な基礎的知識とを身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ヘルスアセスメントの定義・目的について説明できる 系統的アセスメント(身体的・心理社会的)の視点・方法が説明できる ヘルスアセスメントに必要な基本的技術の方法が説明できる 各系統別のフィジカルアセスメントの視点と方法が説明でき、必要な基本的技術をモデル人形へ実施できる 成長発達に伴う特有なアセスメントの視点や方法が説明できる 									
学修者への期待等	1年次に履修している「人体構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」は、ヘルスアセスメントの基礎となります。復習して、知識を積み重ねていきましょう。また、指示された準備学修を行い、講義・演習に主体的に臨みましょう。									
回	授業計画				準備学修			担当名		
1	【講義】ヘルスアセスメントとは 定義・目的と意義 身体部位、方向と位置				【事後】提示された課題に回答して臨む(30分)			二口 尚美		
2	フィジカルイグザミネーションにおける手の使い方 胸部の場所の探し方、腹部と臓器の位置				【事後】授業内で記載した課題を整理する(30分) AB2クラスに分けて実施			二口 尚美 岡崎 草代夏 遠藤 美穂子		
3	ヘルスアセスメントに必要な基本的技術 視診、触診、打診、聴診、意識、身体計測 反転授業				【事前】予習動画視聴(30分程度) 【事後】第3回講義の振り返り(30分程度)			遠藤 美穂子		
4	系統別フィジカルアセスメント① 外皮系、感覚器系、筋骨格系、神経系 反転授業				【事前】予習動画視聴、ワークシート(30分程度) 【事後】講義の振り返り(30分程度)			遠藤 美穂子		
5	系統別フィジカルアセスメント② 呼吸器系、循環器系 反転授業				【事前】予習動画視聴、ワークシート(30分程度) 【事後】講義の振り返り(30分程度)			遠藤 美穂子		
6	系統別フィジカルアセスメント③ 消化器系、腎泌尿器系、生殖器系、乳房 反転授業				【事前】予習動画視聴、ワークシート(30分程度) 【事後】講義の振り返り(30分程度)			遠藤 美穂子		
7	系統別フィジカルアセスメントの実技① 視診、触診、打診、聴診、意識、外皮系、感覚器系、筋骨格系、神経系				ABクラスに分けて実施			遠藤 美穂子 佐藤 理恵 菅原 尚美 二口 尚美		
8	系統別フィジカルアセスメントの実技② 呼吸器系、循環器系、消化器系、腎泌尿器系、生殖器系、乳房				【事前】ワークシートを学修して臨む(1時間程度) 【事後】ワークシートの記入			遠藤 美穂子 佐藤 理恵 菅原 尚美 二口 尚美		
9	事例を用いたフィジカルアセスメント グループワーク				【事後】ワークシートの記入			遠藤 美穂子		
10	【講義】高齢者のヘルスアセスメント 高齢者のフィジカルアセスメントの特徴、バイタルサインの特性、アセスメントの視点とアセスメントツール				【事前】教科書〈老年看護学①〉p.221~241を予習して臨む(1時間程度) 【事後】授業後：学びの提出(約10分)			菅原 尚美		
11	高齢者のフィジカルアセスメントの実際① (実技・グループワーク)				ABクラスに分けて実施 【事前】ワークシートで予習する(1時間程度)			菅原 尚美 齋藤 美華 桑田 恵美子		
12	高齢者のフィジカルアセスメントの実際② (討議)				【事後】ワークシートを整理し提出する(30分程度)			菅原 尚美 齋藤 美華 桑田 恵美子		
13	【講義】子どものアセスメント① 子どもに特徴的なアセスメントの視点				【事前】教科書〈小児看護学[1]〉p.284~302を予習して臨む(1時間程度)			岡崎 草代夏		

回	授業計画	準備学修	担当名
14	【講義】子どものアセスメント② アセスメントに必要な技術	【事前】教科書〈小児看護学[1]〉 p 303～343を予習して臨む（1時間程度）	岡崎 草代夏
15	子どものアセスメントの実際① 子どものバイタルサイン測定	ABクラスに分けて実施 【事前】ワークシートに取り組み事前 学習して臨む（1時間程度）	岡崎 草代夏 武田 美奈子 佐藤 理恵 遠藤 美穂子 鹿野 ひとみ
16	子どものアセスメントの実際② 子どもの身体計測	【事後】15回、16回の演習後学びを整理しレポートを作成する（1時間程度）	岡崎 草代夏 武田 美奈子 佐藤 理恵 遠藤 美穂子 鹿野 ひとみ
17	【講義】母性看護におけるアセスメントの視点と方法① 妊娠・分娩期	【事前】正常な妊娠・分娩経過について復習して臨む（1時間程度）	田辺 圭子
18	【講義】母性看護におけるアセスメントの視点と方法② 産褥・新生児期	【事前】正常な産褥経過・早期新生児期経過について復習して臨む（1時間程度）	田辺 圭子
19	母性看護におけるアセスメントの実際① 妊娠・分娩期	ABクラスに分けて実施 【事後】演習後学びを整理しレポートを作成する（1時間程度）	田辺 圭子 佐藤 理恵 坂村 佐知 岡崎 草代夏 遠藤 美穂子
20	母性看護におけるアセスメントの実際② 産褥期・新生児期		田辺 圭子 佐藤 理恵 坂村 佐知 岡崎 草代夏 遠藤 美穂子
21	事例を用いたヘルスアセスメント① フィジカルアセスメントの実技	ABクラスに分けて実施 【事前】ワークシートを学修して臨む 【事後】ワークシートの記入	遠藤 美穂子 佐藤 理恵 菅原 尚美 二口 尚美
22	事例を用いたヘルスアセスメント② ヘルスアセスメントの実技・グループワーク		遠藤 美穂子 佐藤 理恵 菅原 尚美 二口 尚美
23	事例を用いたヘルスアセスメント③ 学びの統合 グループワーク	【事後】演習の学びを整理し、レポートを作成する（1時間程度）	遠藤 美穂子
教科書	『看護学テキストNice 基礎看護技術』香春知永他著、南江堂 『ナースンググラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害』堀内ふき他著、メディカ出版 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論/小児看護学総論』奈良間美保他著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論』森恵美他著、医学書院		
参考文献	『ナースング・スキル』エルゼビア・ジャパン株式会社 『ナースングチャンネル』株式会社京都科学 『高齢者のフィジカルアセスメント』角濱春美他著、MCメディカ出版 『日常生活における高齢者のヘルスアセスメント』educational-video-online 丸善出版株式会社 *その他の参考文献については、授業の中で必要時提示する。		
備考	*準備学習の予習動画視聴は、ナースング・スキル、ナースングチャンネル等の動画コンテンツを含みます。 *準備学習のワークシートは使用時に配布し、事前・事後課題への取組みと提出はその都度、指示をします。 *授業内課題は、提出物（レポート、ワークシート、学び、振り返り等）で評価し、適宜フィードバックします。		

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師としての実務経験を活かし、看護展開の基礎となるヘルスアセスメントについて、身体的側面、心理的側面、社会的側面など多角的・専門的な視点から学生に伝える。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-CHN-03				
	●	●								
科目名	小児看護学援助論Ⅱ				単位認定者	武田 美奈子 岡崎 草代夏		試験（筆記）	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	20 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	受講態度
							授業回数		15 回	
授業の概要	小児に多く見られる症状（発熱・脱水・痙攣・呼吸困難・痛み）、経過別（急性期（事故対応救急対応含む）・慢性期）、特殊な状況（隔離・安静・虐待）におけるアセスメントの視点や小児特有の援助技術の方法（一次救命処置・プレパレーション・与薬方法・持続点滴管理・身体抑制等）を学び、小児看護の実践能力を身につける。									
到達目標	1. 小児の健康障がいによって生じる問題を適切にアセスメントし、その援助方法が説明できる。 2. 小児に対して行う援助技術の方法を理解し、モデル人形等を使って実施できる。									
学修者への期待等	小児は同じ援助方法でも注意すべき点が異なるため、よく小児の特徴を理解して学修して欲しい。そのため小児看護学概論・小児看護学援助論Ⅰなど既習の知識を復習し、根拠を確認しながら学んでいく事を臨む。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	【講義】 授業ガイダンス 子どもにとっての良好な療養環境を整えるための援助 （コミュニケーション・環境整備）				【事前】教科書や書籍・インターネット等を使って小児専門病院・小児病棟をイメージ化して臨む（概ね30分）			武田 美奈子		
2	【講義】 入院中の子ども・家族の理解及び看護 子どもに生じやすい症状への看護Ⅰ （発熱・嘔吐下痢・脱水）				【事前】小児看護学概論で学修した身体的特徴と発熱・下痢嘔吐・脱水の関連性を復習（概ね30分）			武田 美奈子		
3	【講義】 子どもに生じやすい症状への看護Ⅱ （痙攣・痛み・呼吸困難）				【事前】小児看護学概論で学修した身体的特徴と痙攣・呼吸困難の関連性を復習（概ね30分）			武田 美奈子		
4	プレパレーションの実際① グループワーク				【事前】教科書「動画一覧」採血時のプレパレーションを視聴しておく（概ね30分）			佐藤 幸子 武田 美奈子 岡崎 草代夏		
5	プレパレーションの実際② 発表									
6	【講義】 生活制限の必要な子どもとその家族への看護 （感染予防・隔離中の看護）				【事前】教科書各論の第6章A③を予習して臨む（概ね30分）			武田 美奈子		
7	【講義】 外来における子どもと家族への看護				【事前】教科書総論の第2章B外来における子どもと家族の看護を読み、小児外来のイメージを持って臨む（概ね30分）			岡崎 草代夏		
8	【講義】 急性期にある子どもとその家族への看護				【事前】教科書総論の第3章Bを読み急性期の概念を復習し、急性期にある子どもとその家族の気持ちを考えて臨む（概ね30分）			岡崎 草代夏		
9	小児の救急蘇生法				【事前】教科書総論の第6章⑩を読み予習、さらに「動画一覧」救命処置を視聴しておく（概ね30分） 【事後】小テスト/感想等まとめあり			佐々木 重徳 佐藤 幸子 武田 美奈子 岡崎 草代夏		
10	【講義】 慢性期にある子どもとその家族への看護				【事前】教科書総論の第3章Aを読み慢性期の特徴を捉え、慢性期にある子どもとその家族の気持ちを考えて臨む（概ね30分）			佐藤 幸子		
11	【講義】 検査・処置を受ける子どもの看護 （与薬・輸液管理・抑制・検体採取他）				【事前】教科書総論の第6章A～C⑨までを読み予習し、検査・処置を受ける子どもの気持ちを考えて臨む（概ね30分）			岡崎 草代夏		

回	授業計画		担当
12	治療・処置に対する援助技術の実際① 診察・検査時の安全安楽な援助	【事前】事前学習ワークシートを学修のうえ臨む（概ね60分） 【事後】学びを整理しレポートを提出（概ね60分）	佐藤 幸子 岡崎 草代夏 武田 美奈子 佐藤 理恵 坂村 佐知 鹿野 ひとみ
13	治療・処置に対する援助技術の実際② 持続点滴中の看護・与薬の工夫、子ども体験他		
14	【講義】特殊な状況にある子どもとその家族への看護 児童虐待	【事前】教科書総論の第8章を読み予習して臨む（概ね30分）	佐藤 幸子
15	【講義】特殊な状況にある子どもとその家族への看護 ・先天性疾患・心身障がいのある子どもとその家族への看護 ・災害にあった子どもとその家族への看護	【事前】教科書総論の第2章D・第7章を読み予習して臨む（概ね30分）	武田 美奈子
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ小児看護学 [1] 小児看護学概論/小児臨床看護総論』奈良間美保他著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ小児看護学 [2] 小児臨床看護各論』奈良間美保他著、医学書院		
参考文献	『根拠と事故防止からみた小児看護技術』浅野みどり編集、医学書院 『ナーシング・グラフィカ 小児看護学(1)：小児の発達と看護』中野綾美編、MCメディカ出版 『ナーシング・グラフィカ 小児看護学(2)：小児看護技術』中野綾美編、MCメディカ出版 『写真でわかる小児看護技術』山元恵子監修、インターメディカ		
備考	※授業内課題は、演習後に小テストやレポートによって評価する。 ※授業内課題は次回の講義時にフィードバックする。 ※演習はABの2クラス編成で行う。但し「プレパレーション」演習は全1クラスで行う。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

この授業では、小児看護を実践するために必要な知識・技術・態度を学修する。そのため教員は医療従事者での実務経験を活かし、臨床現場で活用できる授業を展開する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-NIP-02				
	●	●			●					
科目名	災害看護				単位認定者	高橋 由美 泉田 さとみ		試験(筆記)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	50 %
							授業時間数		30 時間	
				授業形態	演習	授業回数			15 回	
授業の概要	災害の種類と特徴、災害医療の概要、災害サイクルの特徴と保健医療の役割と看護、災害時のトリアージ、応急処置、搬送法、避難所の開設・運営、要配慮者への対応を学び、災害看護の実践能力を身につける。									
到達目標	1. 災害看護の概要と災害サイクルに応じた看護の役割を説明できる 2. 災害時のトリアージ、応急処置の方法について説明できる 3. 災害時の搬送法の知識・技術を修得し、学生間で実施できる 4. 災害時の避難所の開設・運営、要配慮者への対応について学び、必要な生活環境を整えることができる									
学修者への期待等	東日本大震災の被災地で災害看護を学ぶにあたり、被災地は基より、地域社会の情勢に関心を向けること。また、応用力、想像力、創造力を発揮し、主体的に学んでほしい。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	災害看護授業ガイダンス 【講義】災害・災害看護とは、災害看護の歴史、防災計画とシステム、災害医療の支援、災害に関する法律				【事前】2章-A・Bについて予習しておくこと			高橋 由美		
2	【反転授業】災害サイクルに応じた看護①災害直後と急性期				【事前】2章-C・D①について予習しておくこと			泉田 さとみ		
3	【反転授業】災害サイクルに応じた看護②亜急性期				事前課題の提出(30分程度)			泉田 さとみ		
4	災害時の看護の実際 災害トリアージ・応急処置：机上訓練・グループワーク				【事前】これまでの学修内容を復習しておくこと(1時間程度)			高橋 由美		
5	災害時の看護の実際 搬送法：体験学修・グループワーク									
6	【反転授業】発災直後から亜急性期の災害看護の実際				【事前】授業について復習し、災害直後から災害亜急性期までの健康問題を考えること 事前課題の提出(30分程度)			泉田 さとみ		
7	【講義】災害サイクルに応じた看護③中長期				【事前】2章-D②について予習しておくこと			高橋 由美		
8	【講義】災害とこころのケア				【事前】2章-Fについて予習しておくこと(1時間程度)			阿部 幹佳		
9	災害時の看護の実際 支援者のストレスマネジメント				【事前】平時の自身のストレスへの対処法を考えておくこと			阿部 幹佳		
10	【講義】東日本大震災におけるこころのケア活動				【事前】8回の授業について復習しておくこと。参考文献(2)7章-7とともに学修する(1時間程度)、【事後】LMS上感想			岡崎 茂 阿部 幹佳 泉田 さとみ		
11	災害時の看護の実際① 実技ガイダンス							高橋 由美		
12	災害時の看護の実際② 避難所の開設・運営：要援助者対応・グループワーク				【事前】これまでの学修内容を復習しておくこと(1時間程度)			高橋 由美		
13	災害時の看護の実際③ 避難所の開設・運営：生活環境整備・グループワーク									
14	発表準備・グループワーク				【事後】講義・演習を基に考察し、レポートを作成する(3時間程度)			高橋 由美		
15	学修成果発表プレゼンテーション・まとめ									
教科書	『系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 [3] 災害看護学・国際看護学』浦田喜久子他著、医学書院									
参考文献	『ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践(3)：災害看護』酒井明子編、MCメディカ出版 『ナーシング・グラフィカ 精神看護学(1) 情緒発達と精神看護の基本』出口禎子他編、MCメディカ出版 『ナーシング・グラフィカ 精神看護学(2) 精神障害と看護の実践』出口禎子他編、MCメディカ出版 『災害看護 心得ておきたい基本的な知識』小原真理子他編、南山堂									
備考	・4・5回目、12～15回目の演習担当は上記の担当教員に加えて、泉田さとみ、阿部幹佳、坂村佐知、手塚有希子が担当します。 ・授業内課題はレポート課題(40%)、授業後感想(10%)で評価し、適宜フィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

臨床現場(病院等に5年以上勤務)、地域・被災者支援の経験を持つ教員が、災害の発生に備えて、地域と密着した災害発生時の対応について教授する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-NIP-05				
		●		●						
科目名	看護研究Ⅱ				単位認定者	小林 淳子		試験 (レポート)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	授業内 課題等	10 %
					授業形態	演習	授業時間数		16 時間	受講態度
						授業回数	8 回			
授業の概要	実際にケースレポートや論文作成を通して、看護の質向上のために自らの看護実践を省察し研鑽し続けるために看護研究を行う基礎的能力を身につける。									
到達目標	1. 臨地実習で学んだ看護実践を客観的に振り返り、文献を活用しながら自己の看護実践の効果と課題を明確にしてケースレポートを作成することができる。 2. ケースレポートに基づき口頭発表用のパワーポイント (ppt) の作成ができる。									
学修者への期待等	「看護研究Ⅰ」の学修内容を復習して臨んで下さい。臨地実習における自身の看護実践の効果と課題を考察し、看護実践能力向上につながるケースレポートとなることを期待します。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	看護研究Ⅱ ガイダンス ケースレポートの意義・作成のプロセス				「看護研究Ⅰ」5回目の授業を復習して臨み、本授業内容を復習し理解を深めてください (各30分間程度)			小林 淳子		
2	ケースレポート：ケース選択				前期領域実習の受け持ち事例を振り返って臨み、選択した事例の実習記録を確認して下さい (各30分間程度)			小林 淳子		
3	ケースレポート：テーマ検討・決定				選択した事例の実習記録を確認して臨み、指導担当教員決定後連絡を取り助言を受けてください (各30分間程度)			小林 淳子 備考欄参照		
4	ケースレポート：文献検索				「看護研究Ⅰ」6・7回目の授業を復習して臨み、指導担当教員の助言を受けてください (各30分間程度)			小林 淳子 坂村 佐知 備考欄参照		
5	ケースレポート：看護実践の経過				「看護研究Ⅰ」5回目の授業を復習して臨み、ケースレポート作成について指導担当教員から助言を受けてください (各30分間程度)			小林 淳子 備考欄参照		
6	ケースレポート：考察・結論・まとめ				「看護研究Ⅰ」5回目の授業を復習して臨み、ケースレポート作成について指導担当教員から助言を受け、ケースレポートを完成させ期限まで提出してください (2時間程度)			小林 淳子 備考欄参照		
7	プレゼンテーション：口頭発表の方法				「看護研究Ⅰ」8回目の授業を復習して臨み (30分間程度)、プレゼンテーション用のpptを完成させ期限まで提出してください (2時間程度)			小林 淳子 坂村 佐知 備考欄参照		
8	プレゼンテーション：口頭発表				作成したppにより練習をしてプレゼンテーションに臨んでください (2時間程度)			小林 淳子 坂村 佐知		
教科書	『系統看護学講座 別巻 看護研究』坂下玲子他著、医学書院									
参考文献	『文献レビューのきほん』大木秀一著、医歯薬出版株式会社 『看護にいかす文献検索入門：学び続けるための情報探索スキル』富田美加他著、中央法規									
備考	<ul style="list-style-type: none"> 授業内課題は7回目プレゼンテーション用ppt (10%) で評価する。 受講態度は発表会参加状況 (10%) で評価する。 ケースレポート作成においては随時指導担当教員がフィードバックを行う。 指導担当教員： 高橋由美、阿部春美、木下美佐子、佐藤幸子、齋藤美華、田辺圭子、佐藤由記子、岡崎優子、菅原尚美、佐藤理恵、武田美奈子、阿部幹佳、真溪淳子、二口尚美、佐藤清湖、佐々木重徳、泉田さとみ、遠藤美穂子、岡崎草代夏、東海林美幸、加藤真理子、手塚有希子、小倉真紀 									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

保健師 (自治体等に5年以上勤務) としての実務経験を生かし、看護実践に基づくケースレポート作成について理解が深められるよう教授する。